

堀田井上家の鏝絵の由来

別府市堀田 井上 友介

鏝絵は日本全国に散在していますがその数の半数近くの約七〇〇件が大分県にあるといわれています。しかし別府ではほとんど見ることはできず安心院・日出・山香などで多く見受けられます。左官職人によって支えられてきた文化である鏝絵は明治・大正・昭和と生き生きとした庶民の思いが様々な色彩で自由に描かれています。職人の遊び心や厄除け・家内安全・子孫繁栄・幸福招来の意味が込められています。旧家の蔵や住宅の白壁に描かれた鶴・亀・龍・七福神・家紋などの鏝絵は別名、漆喰彫刻・左官絵・鏝掛け・蔵飾りとも呼ばれそのほとんどが無名の職人たちによって作られました。主な素材はセメントでは無く石灰であること。これに海草や繊維状のスサなどを混ぜて浮き彫りのように盛り上げる。シツクイの呼び名はセツカイのなまったもの。漢字の「漆喰」は当て字です。

さて、この鏝絵ですが敗戦直後に作られた物。当時四国の左官職人が住込みにて作り上げました。亡き父が昭和三年

生まれで干支が「辰」だったのでデザインが決まったとの事。立体感を出すために龍を浮かせて飾っている所に他の鏝絵では見られない特徴があります。今現在半世紀以上経っていますが何ら朽ち落ちる事も無く当時の左官職人の技術の高さを物語っています。

